

ガラスにまつわるエッセイ

妖精の森ガラス美術館 三浦 和

今月はガラス美術館で開催中の企画展についてお話しします。

4月5日から2階の企画展示室でガラス作家奥野美果さんの作品展「実像と虚像」が開催中です。奥野さんは関東を拠点に活動されていて、鑄造ガラス（キルンワーク）という技法で作品制作をされています。

鑄造ガラスは型にガラスを流し込んで制作する技法のことで、大型の作品制作ができたり、重厚感（重量感）のある作品ができるのが特徴です。

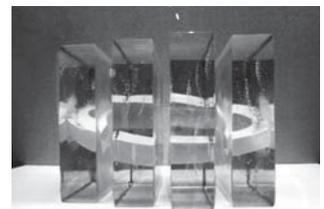
吹きガラスは竿の先にガラスを巻きつけて作っていくのに対し、鑄造ガラスは電気炉の中で型にガラスを流し込んで成型し、ガラスが冷めた後に研磨して仕上げをしていきます。

奥野さんの作品は透明なガラスの中に空洞を作り、そこがかたちとなって見る側の目に飛び込んできます。透明なガラスの中に見えるかたち＝実像、でもそのかたちはガラスの中にある空間＝虚像、という捉えかたで「実像と虚像」という展覧会名にしています。

「実」と「虚」の関係はガラスの屈折も利用しています。

畠山前館長が4月号に写真掲載した「白い虹」という展示作品は4つのパーツを並べて、繋がった輪っかのかたちを表現していますが、正面から少しずれた場所から見ると輪は繋がっていないように見えます。これはガラスの厚みによる屈折を利用して、正面から見た「実像」とずれた場所から見る「虚像」、あるいはどちらが「実」と「虚」なのかも分からなくなるような視覚のトリックです。

奥野さんの作品にはこういった見る人を楽しませる要素が盛り込んであります。会期は7月10日（月）までですので、気になった方はぜひ一度ガラス美術館までお越しください。



「白い虹」正面から



「白い虹」斜めから

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話(0868)44-7888

夏期文化講座を開催します

■開催日

7月1日(土)



■開講式／13:45～13:55

■講演／14:00～15:30

■講師／かなざわ やすこ 金澤 泰子氏・しょうこ 翔子氏(書家)

■演題／「天使がこの世に降り立てば」
～ダウン症の娘と生きて～

■開催日

7月22日(土)



■講演／14:00～15:30

■閉講式／15:30～15:40

■講師／えどや かねこ 江戸家小猫氏(演芸家)

■演題／病に学んだ芸の道
～楽しく生きる3つのコツ～

●会場 鏡野町立中央公民館（両日とも） ●入場券 2,000円（2回分のセット販売です）
入場券は、6月9日(金)から鏡野町中央公民館・各地区公民館で販売します

お問い合わせ先 鏡野町立中央公民館 電話(0868)54-0573